

熱心にペンを走らせており、じゅうぶんに研修の実を挙げたものと思う。また県教育長が自らあいさつに出て、県教育行政上の抱負を述べたこともこの会を盛んにするうえに効果的であった。

3 教頭 主事研修会

管理職としての教頭、主事の資質向上をはかり、併せて当面する学校管理上の問題点について研究協議をするため下記要項により研修会を開催した。

方 部	期 日	会 場	参 加 者
県 北	12月22日(金) 9,30~15,30	県庁 正庁 (四階)	小、中、高校教頭並びに 高校主事、分校長250名
相 双	12・23日(土) 9.30~15.30	浪江高等学校	全上 120名

講師

教頭論

東京教育大学 教育学部長 石 三次郎

人事管理と給与について

内閣総理府公務員制度調査室長 増子 正宏

この研修会は方部別に開催することとし次年度は会津、県南、石城方部にて、8月頃開催する予定である。

4 英語教員現職講座 (5カ年計画)

中学校、高等学校を通じて、従来の英語教育における大きな問題点は、いわゆる聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのうち、読むことだけに重点がおかれて、その他の領域が不当にネグレクトされてきたことである。従来、わが国の英語教育がこのような指導に終始してきたことには、歴史的その他、幾多の事情があるのであるが、今後あらゆる面において国際交流がはげしくなる時代となることにかんがみ、中学校、高等学校の新指導要領においては、外国語を読んでわかるというに止まらず、積極的に話し、書くなどの発表運用能力の育成に重点がおかれている。

なお、文部省においては去る昭和35年、新しい時代に対処して今後の英語教育のあり方を、その諮問機関・英語教育改善協議会にはかったが、その答申にいわく。「この答申の趣旨を達成するためには、特に英語を聞くこと、話すことの指導を根本的に改善する必要がある。よって、この際その実効をあげるため、中学校および高等学校の英語教員の聞く能力および話す能力を強化する現職教育を、全国的に早急かつ継続

的に実施し、それに必要な財政的措置を講ぜられたことになった。」

以上の趣旨にもとづき、文部省、県教委主催の英語教員現職講座が今年度から5カ年計画で行なわれることになった。

これは、県内中学校、高等学校英語科担任教員を対象に6日間にわたって、英語を聞き話す現職教育を行ない、聞き話す指導力の抜本的改善向上を図ろうとするものである。

その第一年次の同講座の実施要項は以下の通りである。

1 期日 第1回 昭和36年7月29日～8月3日

第2回 昭和36年8月29日～9月3日

2 会場 第1回 二本松市岳温泉

第2回 猪苗代町翁島荘

3 参加者数

中学校教員75名、高等学校教員25名

4 講師

県教委指導主事 石川衛三

Miss Irene Anderson

Mr. Heber McIlwaine

福島大学教授 小川武二

須賀川高等学校 星 好

会津工業高校 高田善一

5 講習内容

①発音、アクセントおよび抑揚に関する練習。

②英語の指導法に関する討論および実演。

③聴覚教材による練習、歌唱練習その他

6, 日 課

1	2	3	4	5	6	7
P	A	I	S	D	T	L

P=Exercise in Pronunciation

A=Exercise in Accentuation

I=Exercise in Intonation

S=Spoken English

D=Discussion on Teaching Techniques

T=Teaching Practice

L=Lecture, Recreation etc.

7, テキスト

文部省:Guide book, Seminar for Teachers of English; W. Clark:Spoken American English (Intermediate Course)

8, その他

全員宿泊とし、講習期間中は英語を使用し、個人本位の練習を主として行なった。